

初版第1刷(2018/6/30)への訂正

ページ	行(式番号)	誤	正
14	(2.42)	$\frac{2\langle E_x^* E_y \rangle}{\sqrt{\langle E_x ^2 \rangle \langle E_y ^2 \rangle}}$	$\frac{\langle E_x^* E_y \rangle}{\sqrt{\langle E_x ^2 \rangle \langle E_y ^2 \rangle}}$
16	(2.52)	$S_i = E_0 ^2 \mathbf{c}^\dagger \sigma_i \mathbf{c}$	$S_i = \text{Tr}(\sigma_i \mathbf{S}) = E_0 ^2 \mathbf{c}^\dagger \sigma_i \mathbf{c}$
16	下から 5	左回り円偏光であれば $S_2 = S_0$	左回り円偏光であれば $S_3 = S_0$
16	下から 5	右回り円偏光であれば $S_2 = -S_0$	右回り円偏光であれば $S_3 = -S_0$
20	下から 6	q に正準共役	Q に正準共役
24	(3.27)	$\ \hat{a} 0\rangle\ ^2$	$\ \hat{a} n\rangle\ ^2$
36	下から 4	式(3.3)で,	3.3節で,
97	下から 5	位相緩和が大きい	純位相緩和が大きい
98	下から 7	実験例を示す. (a)は, 時間差 τ に対する2光子検出数の測定データ [12], (b)は (a) からに検出器の時定数や前頁の脚注で述べた違いを補正して求めた $g^{(2)}(\tau)$ の値 [13] を示す.	実験例を示す [12,13].
99	上から 8	$p_g(t), p_e(t)$	$p_g(\tau), p_e(\tau)$
101	図 6.6	GaAs	InAs/GaAs
112	図 7.2	下方変換による	下方変換による
116	下から 5	ここで,	となる. ここで,
118	上から 6	Mach-Zehnder 干渉計	マッハ・ツエンダー干渉計
134	図 8.5	$ L\rangle_2$	$ R\rangle_2$
134	図 8.5	$ R\rangle_2$	$ L\rangle_2$
144	下から 2	なっており.	なっており,

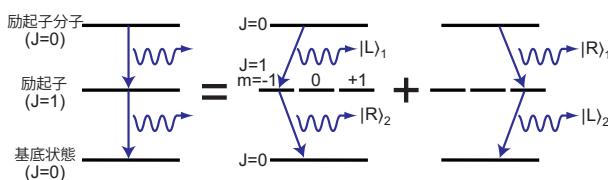


図 8.5 (修正後) 励起子分子を用いた量子もつれ光子対の生成.

初版第2刷 (2021/9/10)への訂正

ページ	行 (式番号)	誤	正
38	上から 10	実にとると	正にとると
39	(3.117) 1 行目	$e^{-i(n\omega+\frac{1}{2})t}$	$e^{-i(n+\frac{1}{2})\omega t}$
46	(4.8)	\hat{H}	H
49	(4.28)	$\sigma(n)$	$\sigma(n)^2$
116	下から 4	他方が通過する場合	他方が反射する場合
137	上から 8	$ \psi\rangle$	$ \Psi\rangle$

初版第3刷 (2023/9/10)への訂正

ページ	行 (式番号)	誤	正
89	(5.83)	$[\hat{b}_j^\dagger, \hat{b}_{j'}] = \delta_{jj'}$	$[\hat{b}_j, \hat{b}_{j'}^\dagger] = \delta_{jj'}$